

●第43回地盤震動シンポジウム(2015)●

1995年兵庫県南部地震から20年間の地盤震動関連研究の発展と今なお残る課題

<主催> 日本建築学会構造委員会 振動運営委員会 地盤震動小委員会

2015年は1995年(平成7年)兵庫県南部地震から20年の節目の年である。6,434名の尊い命が失われるという未曾有の大災害は、「震災の帯」と呼ばれる被害が集中した地域を中心に10万棟以上の建物が倒壊したことが大きな原因であった。あれから20年以上の歳月の間に、「震災の帯」は震源から放出されたやや短周期パルスが神戸市域の盆地構造によって増幅されて生じたこと、やや短周期パルスはM7クラスの内陸地殻内地震の震源域で共通して観測されることが明らかになるなど、兵庫県南部地震の解明や関連する地盤震動研究はめざましい発展を遂げた。一方、2011年東北地方太平洋沖地震では大加速度地震動や長周期・長継続時間地震動といった新たな観測事実と直面するなど、兵庫県南部地震から20年を迎えた今も地盤震動に関する課題はまだ多く残されている。今回のシンポジウムでは、20年前の記憶を呼び戻すと共に改めて兵庫県南部地震とその後の被害地震があぶり出した問題点について議論を行う。また、2015年4月25日のネパールGorkha地震(Mw7.8)によりネパールを中心に甚大な被害となった原因について震源と地盤震動の観点から概要を報告する。これらの議論は、将来の内陸地震による被害の軽減のためにどのように設計行為に活かされるべきかを設計者と共に考える機会となることを期待する。

日時：2015年11月6日(金) 10:00~17:30

場所：建築会館ホール

内容(各講演の題目等は変更されることがあります)

司会：大野 晋(東北大学)・川辺秀憲(大阪大学)

：永野正行(小委員会主査/東京理科大)

1. 主旨説明 10:00~10:10

2. 建物被害と地震動特性の関係 10:10~11:25

2-1 兵庫県南部地震の建物被害の概要

：小山 信(建築研究所)

2-2 兵庫県南部地震の震災の帯とやや短周期パルス

：松島信一(京都大学)

2-3 この20年の地震動の性質と建物被害の関係に関する研究の進展と課題

：境 有紀(筑波大学)

3. ネパールGorkha地震(Mw7.8)概要報告 11:25~12:15

3-1 2015年ネパールGorkha地震の震源破壊過程

：三宅弘恵(東京大学)

3-2 2015年ネパールGorkha地震のカトマンズ盆地における強震動

：高井伸雄(北海道大学)

司会：上林宏敏(京都大学)・大堀道広(福井大学)

4. 特別講演 13:15~14:15

4-1 微動の幅広い利用を

：堀家正則(大阪工業大学)

5. 高精度な強震動予測に向けて 14:15~16:35

5-1 強震観測網の発達と活用

：神野達夫(九州大学)

5-2 地盤震動研究20年間の発展と課題

：野畑有秀(大林組)

5-3 地震動シミュレーションのための地下構造モデル化技術の現状と課題

：鈴木晴彦(応用地質)

5-4 震源断層モデル構築のための活断層研究の進展

：吾妻 崇(産業技術総合研究所)

5-5 震源過程解析と強震動予測震源モデルの進展

：関口春子(京都大学)・三宅弘恵(前掲)

6. 総合討論「兵庫県南部地震から20年間の被害地震から得られた教訓はどう活かされているか」

16:35~17:20

司会：松島信一(前掲)・高井伸雄(前掲)

7. まとめ 17:20~17:30

：山本 優(大成建設)

記録：引間和人(東京電力)

定員：200名(当日会場先着順)

参加費：会員5,000円、会員外7,000円、学生3,000円 *資料代3,000円含む

問合せ：事務局研究事業グループ 伏見 Tel.03-3456-2057